

知事との県民対話集会（辰野町）概要

- ・開催日時 令和5年2月16日（木） 午後3時30分から午後5時まで
- ・会場 辰野町民会館 ホール
- ・参加者 県民90名、武居辰野町長、阿部知事、竹村上伊那地域振興局長
- ・テーマ 一人ひとりの活躍が作り出す 住み続けたいまち
～交流人口・関係人口が集うにぎわいのまちづくり～
- ・主な発言（要旨）

【参加者】

- ・商店街界隈では38件の出店等の新しい動きがある。人がやりたいことに合わせて場所（店）をつくっている。
- ・空き家をきちんと把握し、面白い取組を提案する人に活用してもらえれば、空き家は「武器」になる。物件に応じてコーディネートできる人材の育成が必要。

【知事】

- ・対話集会では県内の多くの地域で空き家の話が出る。空き家の問題は県としてしっかり考えないといけない。県の空き家対策に協力していただき、各地域にノウハウを共有してほしい。

【参加者】

- ・後継者不在で廃業する事業者が増えることに危機感を感じ、サービス業を中心に事業承継する会社を設立した。
- ・事業として「旅行部」など7つの取組を想定。「運動部」では2025年度の中学校部活動の全面的な受け皿を目指す。人員・費用面が課題である。「運送部」ではタクシー会社と提携した二次交通支援等の展開も予定している。

【知事】

- ・中学校の部活動をどうしていくかや地域ごとの移動のあり方は県全体で考えないといけない。一緒に考えていきたいと思う。

【参加者】

- ・関係人口・共創人口の創出に向けた活動をしており、「お困りごとtrip」、「信州つなぐラボ」などの取組により、3年間で300人を超える若者が辰野に来た。
- ・完璧な企画より余白がある方が面白い。今後は地元の人がやりたいことと都市部の人がやりたいことを掛け合わせた共創の取組を推進していきたい。

【知事】

- ・県の施策に協力してくれて感謝したい。いろいろな人とつながるのはやれそうでやれない。辰野のモデル的な取組を全県に広げていきたい。

【参加者】

- ・町の特産品を使った商品開発等「月3万円稼げることを10個やる」を目標に小商いを始めた。辰野町は家賃が安く、小さい資源が多品種ある。小商いと相性がよいと感じている。

【知事】

- ・私はこれからの長野県は一人多役が大事だと言っている。人口減少下で一人一役では世の中は回らない。小商いを複数行うというのはこれからの一つのやり方であり、非常に勉強になった。

【参加者】

- ・町内で創業96年の新聞店を経営。地域住民や事業者と協働しながら、地域のお困りごとの解決に向けて様々なイベントを実施している。地域の皆さんと共にモヤモヤをワクワクに変換していきたい。

【知事】

- ・自分の会社だけでなく地域をどう発展させていくかを考え、地域と一体となって取り組んでいる。双方向性を大事にしていることやモヤモヤをワクワクに変えるという発想に感動した。

【参加者】

- ・養鶏を営んでいる。信州黄金シャモが名古屋種との掛け合わせなのはなぜか。
- ・県畜産試験場で豚熱が発生した。試験場に加えて農業大学校もあり、いろいろな機能が集まり過ぎていて人の出入りが多い状況であるので、是正すべき。
- ・農業を営んでいると資金繰りはとても大変、なかなか資金を借りられない状況である。

【知事】

- ・豚熱や鳥インフルエンザは徹底的に防いでいかなければならない。県の施設のあり方、人の出入りが多いというご指摘の課題は点検したい。名古屋種との掛け合わせについても現場の状況を確認したい。
- ・県内を回っている中で畜産関係の方の厳しい状況は聞いている。価格高騰対策はしっかりやっけていく。そもそも適正価格で取引されないといくら補助金を出してもきりがないが、流通や販売価格の部分も考えていかないといけない。農業、畜産、養鶏を営まれている皆さんの声を聴いて、当面の対策と本質的な対応の両面を考えたい。

【参加者】

- ・信州大学情報学部について、移動キャンパスの仕組みをつくってもらえればと思う。これからの長野県にとっては必要。

【知事】

- ・高等教育の振興は県としてもしっかり取り組まなければならない。信州大学は大学内での議論をしっかり行った上で、地域の若い人に選ばれるようにしてもらえればと思う。
- ・高等教育機関が少ないのは長野県の課題。人口減少下での誘致は厳しいが、高等教育機関の地方への分散の動きを県民の皆さんとつくりたいと思う。